



DIVA業務委託に関する大会用機材追加に伴う契約変更

テクノロジーサービス局

(1) 概要

東京2020大会の競技会場内においては、ビデオボード、パブリックスコアボード、音響システムなどの映像音声信号の伝送、インターカム（運営に関わるスタッフ同士、会場内のアナウンスなどの近距離の音声通信ツール）などが必要となる。これらに必要な各種ケーブル敷設の作業を効率化・低コスト化するため、1つのネットワークに統合するソリューションとして、DIVA（FOP **D**ata, **I**ntercom, **V**ideo, **A**udio)ネットワークの提供を行い、映像音声信号の伝送、インターカムのサービス提供を行う業務委託に関して、入札を行い、RIEDEL社が受託し、契約締結を行った。

この契約においては、過去大会を前提とした要件で契約金額を定めているが、要件の変更に伴って、金額変更を検討するための単価表を付属した形としている。

過去大会に対して、東京2020大会においては、数多くの競技におけるビデオ判定システムの導入、OBSの4K放送システムの導入、により、過去大会に対して、映像音声信号のネットワークとして、過去大会に対して、2倍以上、音声・映像信号の伝送が必要となっている。この要件に対応するため、契約時の機材に対して、機材追加を実施する。

(2) 背景

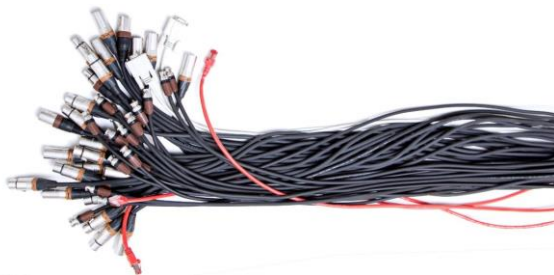
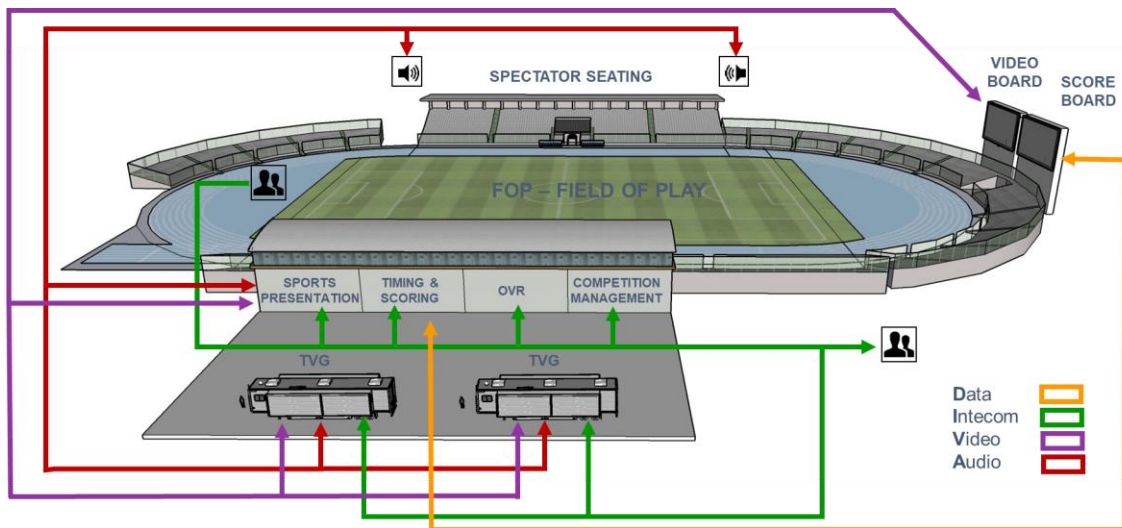
- ✓ Rio大会に対して、ビデオ判定システムが各競技で導入されて、伝送する映像信号数量が倍増となった
(IF要件によるOBSからの映像伝送 Rio 144 → Tokyo 400)
(OBS要件によるビデオ判定システムからの映像伝送 Rio 0 → Tokyo 36)
- ✓ Innovation Projectによる映像伝送
(OBSからの映像伝送 Rio要件 0 → Tokyo 60)
- ✓ 4K採用によるOmega-OBS間のテレビグラフィックスの映像伝送量の増大
(対象会場では、映像伝送のケーブル数がRioに対し、4倍となっている。EYH、IMB、KCC、OLS、OMP、SOP、TAC、TOS)

→映像信号の伝送量としては、Rio大会要件に対し、2倍以上となっている

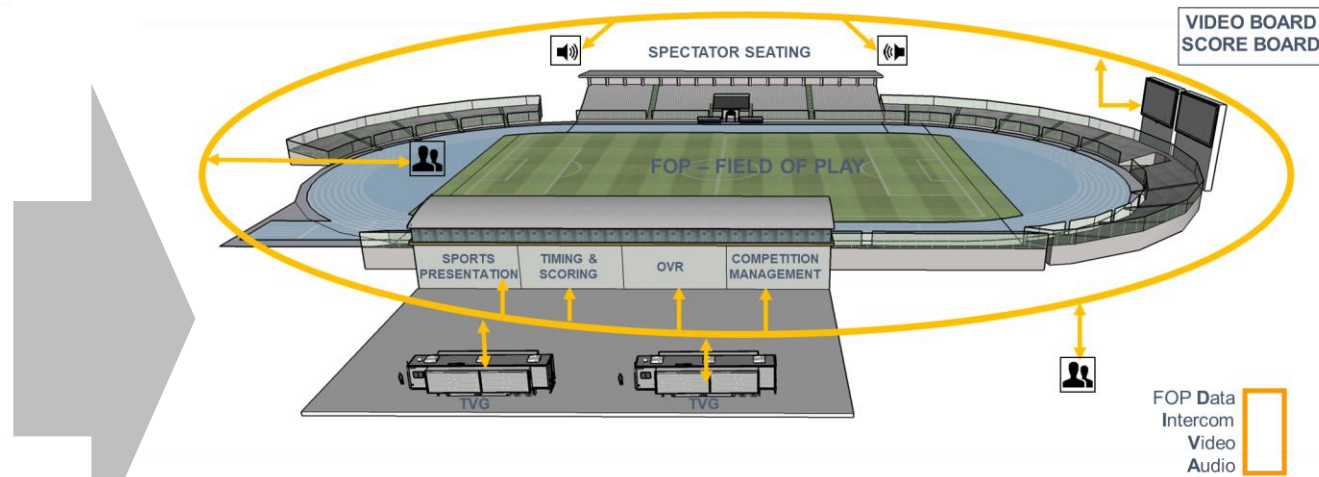
- ✓ OBSがサイクリングロード競技に関して、コンパウンドをOLSに設置することとなり、会場であるFSWまでOLSから映像伝送(8回線のストリーミング)が必要となった
- ✓ インカム機材 ユーザー数の増大、および、ワイヤレスインターカムの採用 (Omega、SPPの活動エリアが拡大し、有線接続が困難となり、ワイヤレスインターカムの採用が必須となった)

参考：DIVAネットワークの概要図

従来の会場内の
音声映像信号伝送



DIVAネットワークによる会場内の
音声映像信号伝送



従来の各機器を1対1で接続していた構成から、DIVAネットワークとして統合してケーブル敷設を行う